第１３７回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２８年９月２６日提出）

１．題　目：平成 28 年度 FD・SD サマーワークショップ
「学生の創造的思考を促す授業を考える」

２．日　時：平成 28 年 9 月 12 日，14 日，20 日，21 日

３．場　所：文教，坂本，片淵地区

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに〇を記入すること）
［　〇　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
全学モジュール科目 II の授業においては、より活動的な授業の方法によって学生の創造的思考を促すことを目指しています。本プログラムでは、高度なアクティブ・ラーニングの例として課題解決型授業をとりあげて、その進め方を紹介します。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】北村　史 助教（大学教育イノベーションセンター）
川越明日香 助教（大学教育イノベーションセンター）
若菜啓孝 教授（大学教育イノベーションセンター）
【内容】課題解決型の授業の進め方を体験型で紹介します。また、授業で取り組むテーマの例を参考にしながら、実際に参加者とテーマ決めのワークをしていきます。
【到達目標】
①課題解決型授業の進め方を知る

②参加者でアイディアを交えて、課題解決型授業のテーマ案をつくることができる

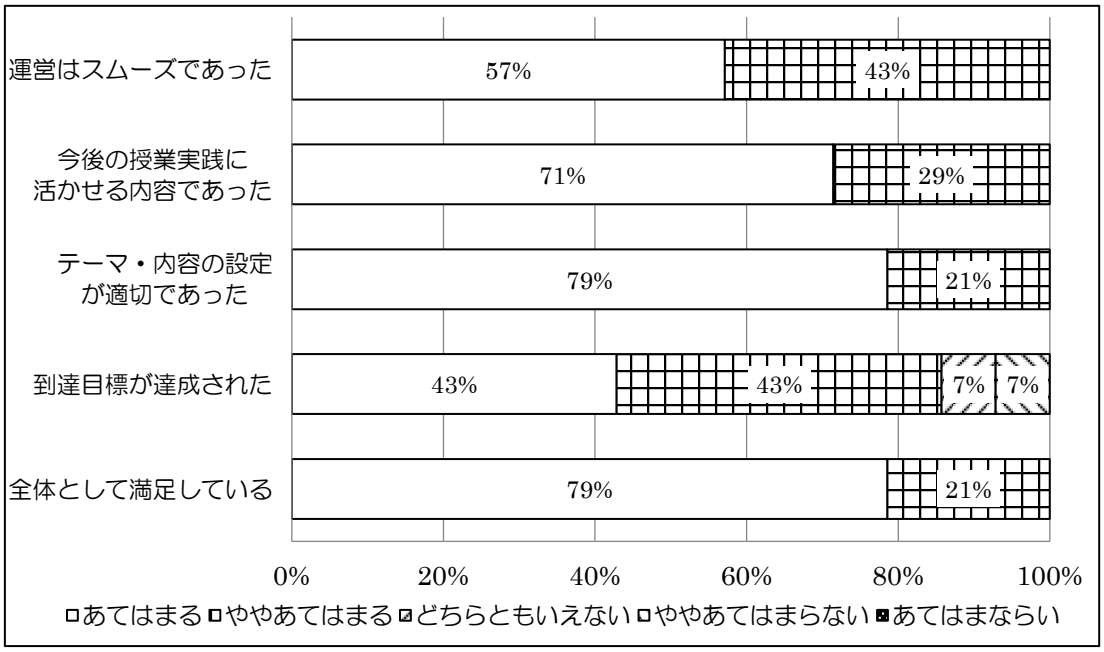
９．参加者：１９名（受講証発行対象者：１９名）

（内訳）

| 所　　属 | 人　数 |
|---|---|
| 教育学部 | 4 |
| 経済学部 | 3 |
| 医歯薬学総合研究科（医系） | 3 |
| 医学部　医学科　先端医育センター | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（保系） | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（薬系） | 1 |
| 病院 | 1 |
| 工学研究科 | 1 |
| 水産・環境科学総合研究科（環境） | 1 |
| 国際教育リエゾン機構 | 2 |
| ＩＣＴ基盤センター | 1 |
| 計 | 19 |

１０．実施したＦＤの成果等

（１）参加者からの評価（回答者：14 名）



●今回のプログラムについて、お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

- シナリオを作る手順と構成要素がわかったのでよかった。
- 十分である
- PBL チュートリアルは医学部の授業でも担当して症例を題材に診断までの過程を自主的に学ばせていますが、本日は全学モジュールに生かせるようなシナリオ作りを、途中アドバイスを頂きながら進められたので、とても有意義かつ仕事が一歩前に進んだような安心感を得ることができ大変感謝しております。最後のシナリオ完成まで時間内に到達できなかったことが少し残念でしたが、途中に参加の先生より長めの質問やお話しが入ったので仕方なかったと思います。いろいろとありがとうございました。
- 参加申し込みがわかりづらかったようでした
- 時間が足りない感じもしましたが、勤務時間内に多くの人に参加してもらうためには仕方ないかもしれませんね。
- 坂本キャンパスで行われたため、医学部教員としてはアクセスがよく大変助かった。しかしその分参加者が少なく、少しさびしい感じがした。内容としては、全学モジュールのみならず専門課程教育にも役立つ内容であったため、より多くの教員に参加してほしかった。
- 大学院での授業ではシナリオを使って PBL 方式で展開している科目がありますが
  モジールⅡに取り入れるのは時間的にも難しいと感じていました(私の担当が 4 コマ)。今回アドバイスを受け、2 コマもしくは 3 コマでも PBL を展開できることを知り来年度からクォーター制になるので、活用できるように工夫してみたいと思いました。
- たとえば、理論系の理系分野ではどのような授業設計がなされているかの例がほしい
- 自分が作成したシナリオで、学生たちがどのような学習テーマを設定してくるかを知ることができるのは、とても興味深い。・ＰＢＬの各ステップについてのもう少し詳細な説明があると、もっと理解しやすいかもしれない。また、ＰＢＬを進めるうえで、全学教員が共通してもっていられるようなルーブリックのファイルや、シナリオ例などがウェブ上にあると助かるかなと思う。
- 平成２９年度後期から初めてモジュール II 科目を担当するので、批判的思考と創造的思考を養成するのに、どのような手法を導入すればよいか迷いがあったので、今回の FD はとても有意義であった。なかでも、PBL を用いた授業設計についてわかりやすく、丁寧にご指導いただいたので、ずいぶん迷いが解消された。オムニバスのメンバーと情報を共有してより良い授業としたい。
- 様々な手法についてご教示いただきありがとうございました．今後の教養教育ならびに専門教育における講義の準備における考え方など、大変有益な示唆をいただきました．

●長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。

・　学生同士のディスカッションを活性化する方法。
・　教養教育の中で課題解決型授業を担当するときの教育技能
・　動画コンテンツの作成の FD に参加できなかったので、機会があればまた教えて頂きたいと思っております。
・　特にありません
・　インストラクショナルデザインと反転授業に興味があります。長崎大学にはたしかインストラクショナルデザイナーが 2 名おられるので、インストラクショナルデザイン講座をシリーズでやってもらいたいです。特に医学部の授業は、未だに知識伝授型授業や系統だっていない授業が多いため、インストラクショナルデザインは役に立つと考えます。
・　「学生が考えるシラバス」というような FD があったようですが、予定が合わず、参加することができませんでした。学生目線の FD をぜひお願いしたい。
・　特になし
・　講義の組み立て方（各回、全体）についての考え方などについて、FD を開催していただければと思います.

（2）総　括

本 FD では、「考える力」 の向上をめざしたアクティブ・ラーニングの充実が求められる中、モジュール II の後期科目担当者を対象に、創造的思考を育てるアクティブ・ラーニングの例を紹介し、具体的には、PBL（Problem Based Learning）のシナリオ作成を取り上げ、体験的に学ぶプログラムを実施した。研修では、この全学モジュール科目のねらい、位置づけ、COC+との関係などについての説明も、参加者の疑問に答えながら行った。その後 PBL のシナリオ作成方法について解説へと進行したが、時間の多くは、参加者のワークに充てられた。シナリオ作成にあたり、学習テーマ、キーワード抽出などマンダラートを利用した個人ワークで殆どの時間を費やし、グループ内での発表までで、最終的なシナリオまで行きつくことができなかったが、総じて参加者の満足度は高かった。今回、科目責任者を通して日程調整を行った上で 5 回の FD を実施した。参加者が少なかったのは残念であるが、逆に、各参加者の疑問にも多く答えることもできた点、個人ワークの中で詳細に助言できた点などがあり、有益な FD であったと思われる。

（大学教育イノベーションセンター　若菜啓孝）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長 松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１３７回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２８年９月５日提出）

１．題　目：平成 28 年度 FD・SD サマーワークショップ
「組織的なアクティブ・ラーニングの効果について考える」

２．日　時：平成 28 年 8 月 29 日（水）　10:30～12:00

３．場　所：第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
2015 年度に全学モジュール科目Ｉ（24 科目）を対象に，学修に関する授業内のプレ・ポスト調査を実施しました。その結果について報告をした上で，組織的なアクティブ・ラーニングの効果について議論します。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】川越明日香 助教（大学教育イノベーションセンター）
森　朋子 教授（関西大学）
本田周二 専任講師（大妻女子大学）

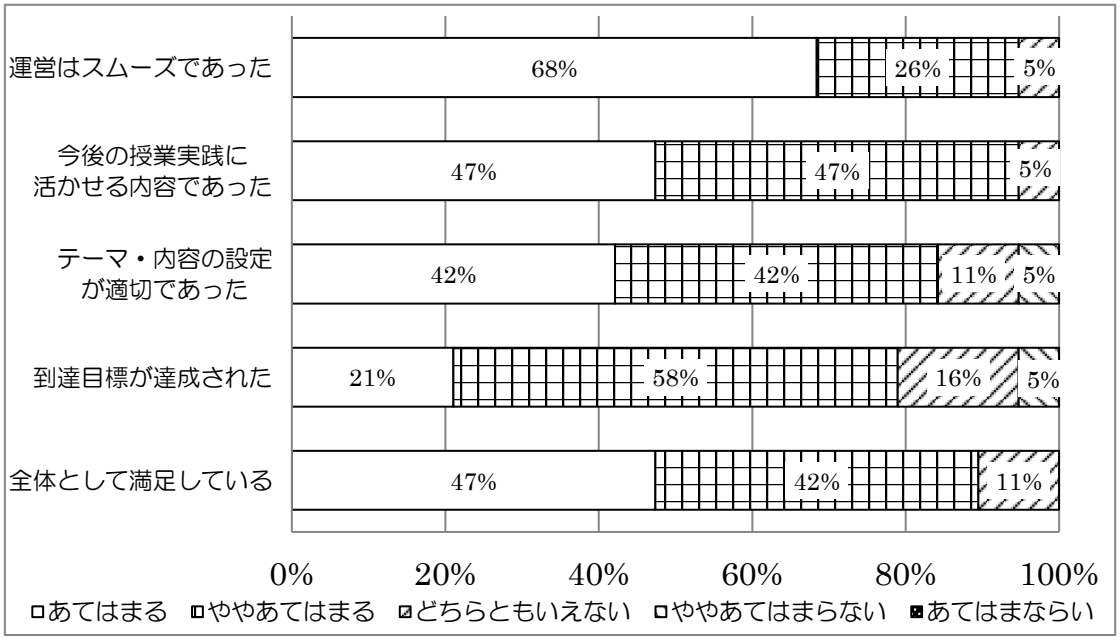
【内容】「学修に関する調査」の結果報告を行い、アクティブ・ラーニングの教育効果に関して意見交換を行います。さらに、課題を整理した上で、深い学習アプローチに向けた授業内容について検討をしていきます。

【到達目標】
①「学修に関する調査」の結果から，課題を整理する。
②教育効果のあるアクティブ・ラーニング型の授業を設計することができる。

９．参加者：２３名（受講証発行対象者：２２名（学生１名除く））
（内訳）

| 所　　属 | 人　数 |
|---|---|
| 工学研究科 | 1 |
| 水産・環境科学総合研究科(水産) | 2 |
| 水産・環境科学総合研究科(環境) | 4 |
| 医歯薬学総合研究科（医系） | 3 |
| 医歯薬学総合研究科（保系） | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（歯系） | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（薬系） | 1 |
| 産学官連携戦略本部 | 1 |
| 大学教育イノベーションセンター | 3 |
| ICT 基盤センター | 2 |
| ダイバーシティ推進センター | 1 |
| 地方創生推進本部キャリア支援センター | 1 |
| 学生支援部 | 1 |
| 学生 | 1 |
| 計 | 23 |

１０．実施したＦＤの成果等
（１） 参加者からの評価（回答者：19 名）




● 今回のプログラムについて，お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

- 少し具体的な事例も入っているとさらに良かった
- 森先生のご発表は参考になりました。その他の２件は時間半分でよかったと思います。
- 質疑応答の時間が少なく，アクティブ・ラーニングの FD なのに一方通行であった。
- 「組織的なアクティブ・ラーニングの効果を考える」という題目とは異なる内容のように感じられた。・担当モジュール授業の評価アンケート結果に毎年落胆する者ですが、アクティブ・ラーニング授業設計の考え方を聞かせていただいた気がしています。自らの授業内で試行錯誤したい。・学修に関する調査については、質問項目の構成・意義についてご説明いただき、理解できたと思う。調査結果の本学授業への活用については、科目ごとの解析も含め、もう少し課題の整理など議論が必要と思われた。
- 質疑応答の時間を十分にとる必要があったとあります。「本学における教養教育の位置づけ」や「調査結果の報告」等は今回の WS には不要だったと思います。参加者の多くは実際に教養教育に従事している教員でしたので、WS と銘打つのであれば、講演は森教授のみにして、残りの時間は質疑応答を行い、そのなかから長崎大学の AL の問題点を抽出し、今後の方向性等を議論すべきだったと思います。AL についての WS なのに AL になっていなかったのがほんとうに残念です。消化不良の感が否めません。
- 関西大学の森先生のお話は非常に参考になりました。専門科目でのアクティブ・ラーニングの導入についても今後、ワークショップが企画・開催されると非常に助かります。
- とても勉強になりました。今後の授業実践に活かしたいと思います。実践に向けて森先生にお聞きしたいことがあったのですが時間がなく諦めました。次回は質疑応答の時間をもう少し長くとっていただけると実践への取り入れがもっとスムースになるのではないかと思います。

・　アクティブ・ラーニングにおいて、何を目標とすれば良いのか、わかったような気がしました。インプットとアウトプットの繰り返しが肝要とのことでした。私個人の課題としては、理想とする形はわかったが、毎日診療や医学生教育、家庭生活（家事、育児）を繰り返す中での限られた時間で、モジュールにあたりどう準備をしていくかということです。
・　質疑応答の時間をもう少したくさん確保するのがよいと思いました。
・　森先生のアクティブ・ラーニングの説明は非常に参考になりました。これまで本学でのアクティブ・ラーニングの必要性は方法に偏って説明されていたように思いますが、森先生のような説明をきちんとしていただければ、もっと皆が取り組むだろうと思います。
・　ディスカッションは非常に良かった。他の科目との棲み分けを如何にするか、今後検討する必要があると感じた
・　質疑応答の時間に余裕があった方がよかった
・　アクティブ・ラーニングに適した科目（平和や安全など議論の方向性が同じになりやすい科目）の方が，学生の達成感があるように思えた。アクティブ・ラーニングの工夫の仕方についてのヒントが得られた。

事務職員

・　関西大学　森先生のご報告は非常に有益な内容でした。内化→外化→内化･･･のプロセスがうまくいく授業として重要であるという点は AL に懐疑的な先生方への疑問に答えるものだったと感じました。受講して本当に良かったです。
・　今回はＦＤとして実施されたが，今回の内容をモジュール科目の履修前に是非学生に聞かせたいと感じた。

● 長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。

・「成功は１０％」とお話のあったアクティブ・ラーニング成功の具体例・引き続き、授業設計に関するテーマ
・修得活用型・探求型、それぞれの授業展開事例（シラバス作成も含めて）を知りたい。
・動画作成の回に興味を持っています。
・授業が８週で構成される事例報告をして欲しい。

（２） 総　括

本ＦＤでは、まず、本学のモジュール型教養教育の概要が簡潔に示された後、本ＦＤにおける課題として、「なぜ、アクティブ・ラーニングなのか？」「アクティブ・ラーニングの効果は？」が川越先生より提示された。

最初の課題を受け、森先生から、アクティブ・ラーニングの導入に至る考え方と背景、ならびに、現状のアクティブ・ラーニングにおける問題点が指摘された後、知識の獲得と能力の育成を両立させる「ディープ・アクティブ・ラーニング」が紹介さ

れ、深い学習を促すアクティブ・ラーニング授業をデザインするための「コツ」が示された。

続いて、「アクティブ・ラーニングの効果は？」に対して、本田先生より、2015 年度全学モジュールⅠ科目で実施した「学習に関するアンケート」における設問の意図ならびにアンケート集計結果の説明がなされた。

授業デザインの「コツ」として示された「内化と外化の往還」「個人と集団の往還」は、アクティブ・ラーニング授業に奮闘する多くの参加者を刺激したようであり、より具体的な授業デザイン例の紹介や質疑応答の時間を望む声が複数届けられた。また、「学習に関するアンケート」については、結果の蓄積による課題の鮮明化により、本学における組織的アクティブ・ラーニングの効果に関する議論が始まるものと期待する。

（文責　西山）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長 松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１３７回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２８年９月１７日提出）

１．題　目：平成 28 年度 FD・SD サマーワークショップ
「学生とともに進める教育改善－大学教育におけるよい授業とは何か－」

２．日　時：平成 28 年 8 月 29 日（水）　15:00～17:00

３．場　所：第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　　] (1)　教員の教育活動に関するもの
[　　] (2)　カリキュラムの改善に関するもの
[　○　] (3)　教育の組織的改善に関するもの
[　　] (4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　] (5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
学生による教育改善のための協議会では，2017 年度に教養教育の自由選択科目に学生発案型授業を立ち上げることを目標に，今年度は授業の具体内容を決定する作業を行っています。本プログラムでは，教職員と学生との間で「大学教育におけるよい授業とは何か」について議論します。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】「学生による教育改善のための協議会」委員
評価・FD 教育改善専門部会委員

【内容】①教職員の考えと，学生の考えを相互に理解し，教育改善の内容を検討する
②学生発案型授業案をまとめる

９．参加者：３２名（受講証発行対象者：２２名（学生 10 名除く））

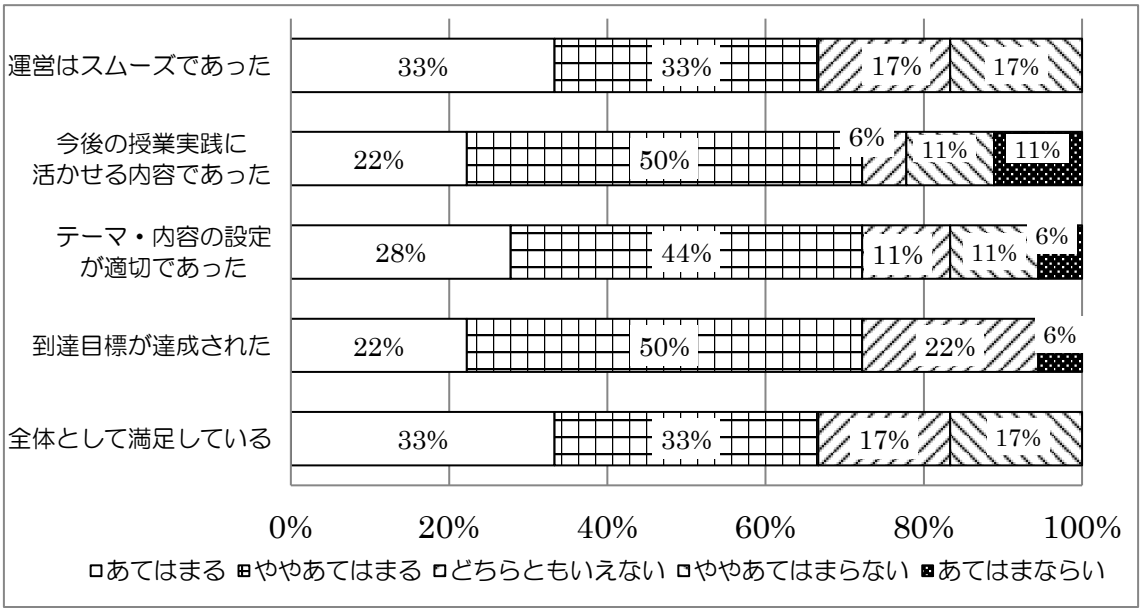
（内訳）

| 所　　属 | 人　数 |
|---|---|
| 教育学部 | 3 |
| 医歯薬学総合研究科（医系） | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（保系） | 2 |
| 医歯薬学総合研究科（薬系） | 2 |
| 工学研究科 | 1 |
| 水産・環境科学総合研究科(環境) | 4 |
| 水産・環境科学総合研究科(水産) | 1 |
| ICT 基盤センター | 2 |
| 大学教育イノベーションセンター | 2 |
| ダイバーシティ推進センター | 1 |
| 学生支援部 | 3 |
| 学生 | 10 |
| 計 | 36 |

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１）参加者からの評価（回答者：18 名）




●　今回のプログラムについて，お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

- ディスカッション内容をあらかじめ周知しておくとスムーズだったです。
- 学生とともに（全体的に学生主導で）会が開催された点は大変に意義深いと思いました。とりわけシラバス検討において，学生との共同作業となったことは大変有意義でした。
- 学生と一緒にする FD というのは新鮮でした.
- 学生参加の FD は初めてでしたが、有意義な時間だったと思います。
- 時間の無い中、学生達が努力した様子がわかりました。具体的な授業のイメージに近づけられるよう引き続き頑張ってほしいと思います。
- FD 研修ありがとうございました。講義の形式や講義内容を学生の視点、学生の意見からディスカッションして改善する FD だと思っており、また「大学教育におけるよい授業とは何か」が副題にありましたので、私自身が授業を構成する際、どのように授業改善していくかそのポイントを得られるものだと思っていました。そのため、すこし私の考えていたものと FD の内容がマッチしていないところがありました。申し訳ありません。
- 学生間のコンセプトに少々差があったように感じました。
- 私自身の認識不足だったと思いますが、予想していた目的とは少し違っていました。学生が講義に求めることは何かを知りたくて参加しました。直接学生さんと話ができたのでよかったですし、シラバスの作り方にも参考になりました。
- 学生たちの意気込みについては十分に理解することができた。一方で，重要視している社会人基礎力のコミュニケーション力やリーダーシップ等を備えるための取り組みについては，企業等の現場が求めることとは少し違うように感じた。
- これらの社会人基礎能力は 1 科目で獲得できるものでなく、大学 4 年間で獲得するものだと思います。したがって、科目作成では他の科目との整合性・関係性・発展性等についても考える必要があると思いました。
- 客観的な達成度評価が難しそうで，授業の目標設定と達成度評価の関係をより明確にしておいた方が良いと思う。
- もう少し学生の具体的な提案があれば、より発展的な議論ができると感じました。本企画自体は素晴らしいと思います。

学生

- ディスカッションの時間が短かったと思います。
- 教職員と学生が話し合える貴重な機会だと思います。

● 長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。

- グループディスカッションの方法
- 特になし
- 今回の学生発案型授業のような、学生が参加できる FD が今後も開催されれば良いと思います。

・　特になし
・　大学における授業改善に関する FD がありましたら教えていただきたいと思っております。
・　情報整理術、ファシリテーションの進め方
・　こういったテーマを継続して取り上げて欲しい。
・　長崎大学の教育理念のもと、教養教育・専門教育の教育目標と構成科目が現在どのように組み立てられているのか他学部も含めて全体図を提示していただき、個々の担当科目及び教育目標が長崎大学の理念に合致して適切なのかどうかを自己評価できるような FD の機会があればよいと思います。
・　エビデンスに基いた教育方法の紹介など
・　現時点では特にございません。

学生

・　特に要望はありません。
・　学生がとりたいと思える授業になればいいです。

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

本年度は，教員と学生で構成された６つのグループに分かれて「学生協議による教育改善のための協議会」メンバーが社会人基礎力養成を目指して作成した学生発案型授業計画案の洗練化へ向けて討論し，その成果を発表した。参加学生数は昨年度と同様であったが，教員数は約 3 倍に増えており，本協議会に対する教員の関心が高まってきていることがうかがえた。

本 FD は、主に学生主導で行われており、2017 年度に教養教育の自由選択科目に学生発案型授業を立ち上げることを目標にした学生と教職員の共同作業という初めての試みであった。ディスカション時間が短い、学生数が少ない等の理由から、具体的かつ発展的な議論までに至ることが難しかったが、教職員が学生の熱意や考え方を知る貴重な機会となった。また、学生にとっても教員の授業に対する考え方を知る機会にも繋がり、双方にとって有意義な FD であった。しかし、「講義の形式や講義内容を学生の視点，学生の意見からディスカッションして改善する FD だと思っていた」という意見から、参加目的と実際の FD 内容にズレを感じた教員もいた。今後は具体的な FD 方法も含めて周知していく必要がある。

全体的に、学生と教職員が話し合える貴重な機会であったという肯定的な意見が聞かれた。授業計画としては、初年次セミナーとの関連性、相違点等も踏まえながらさらに洗練化する必要がある。本 FD で得た知見を基に授業の立ち上げへ向けて、学生委員の活発な議論に期待したい。

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp

電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１３７回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２８年９月１６日提出）

１．題　目：平成 28 年度 FD・SD サマーワークショップ
「授業設計入門」

２．日　時：平成 28 年 8 月 30 日（火）　10:30～12:00

３．場　所：第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　○　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
初めて授業を担当する方，授業方法を再考したい方を対象に，授業設計の基礎事項を概観します。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】川越明日香　助教
北村　史 助教（大学教育イノベーションセンター）

【内容】①到達目標から考える授業設計ができる
②アクティブ・ラーニングの実質化のために具体的な教授方法を知り、実践できる

９．参加者：１４名（受講証発行対象者：１４名）

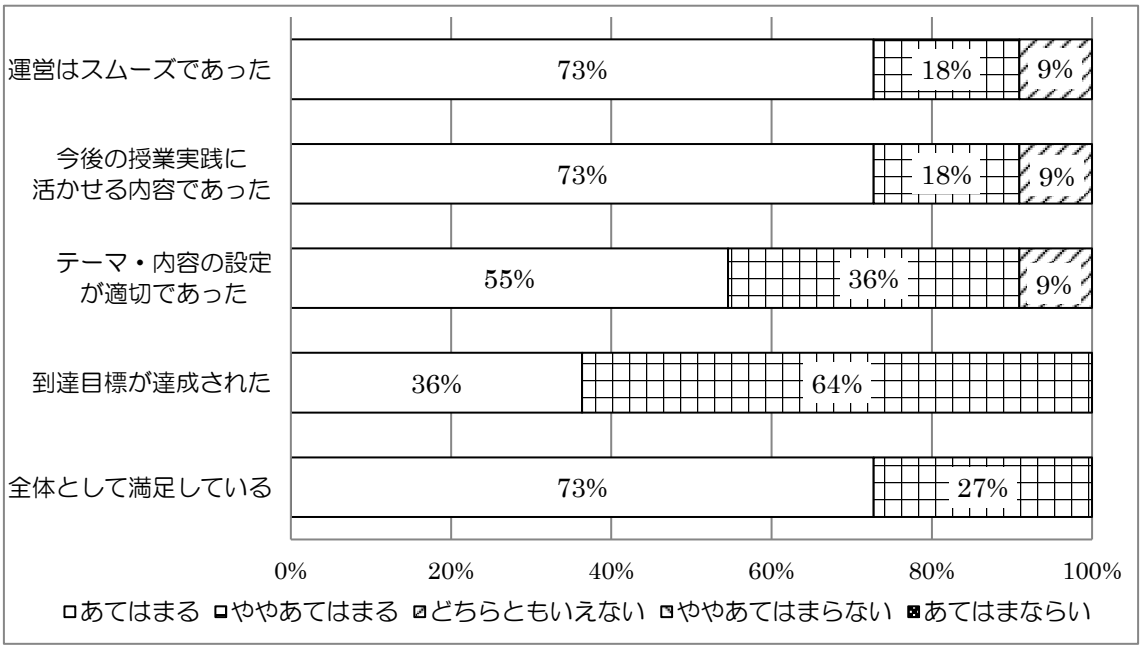
（内訳）

| 所　　属 | 人　数 |
|---|---|
| 教育学部 | 4 |
| 医歯薬学総合研究科（保系） | 3 |
| 医歯薬学総合研究科（薬系） | 3 |
| 水産・環境科学総合研究科(環境) | 2 |
| 大学教育イノベーションセンター | 1 |
| ダイバーシティ推進センター | 1 |
| 計 | 14 |

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（回答者：11 名）




●　今回のプログラムについて，お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

・わかりやすかった.

・教育初心者としては、とても参考になりました。ありがとうございました。

・講師のされている授業を事例にしていただきたい。あまりに、内容が漠然としている。講師の研究基盤が見えないので。

・オムニバスで教員が関わることが多いため、全体の到達目標けでは十分でないことがある。そのためそれぞれの授業内でより具体的な授業目標が必要であるがそれを学生に提示する必要

性を感じた。

・ID を意識した授業設計を心がけていたため、今回の企画はとても興味・関心がありました。参加して、今後の授業設計や日々の講義などに活用していきたいと思います。

・講義も大変わかりやすく、難しい内容が、とてもよく理解でした。限られた時間に、要点がまとめられており、後期からの授業に早速生かせる内容でした。可能なら、ぜひこの内容でパート２を開いていただきたいと思いました。

・準備がよくできていて、分かりやすく参加できました。ご苦労様でした。

・内容に対して、やや時間が不足していたように感じました。各学部によって，授業内容が異なるので、専門科目と教養科目にわけた、授業設計入門をしていただくと、も少し，具体的になるように思いました。あとは、授業設計入門ということでしたが、入門だけではなく応用編というかアドバンスFDも開催していただくと良いように思いました。

● 長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。

・ 対象者のレベルごとの研修などを設定してほしい。

・ 今回のような授業改善につながるようなＦＤは，大変関心があります。（以上教育職員）

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

今回のプログラムでは、授業で教える際に根本的な考え方となるインストラクショナルデザイン（ID）の解説から始まり、授業の設計図ともいえるシラバスにおける到達目標の設定、その評価法等が具体的に示され、初めて授業を担当する方のみならず、授業方法を再考したい方にも、有益な内容となっており，十分趣旨に沿ったプログラムであったと思う。また、授業方法においても、まずは緊張を解くためのアイスブレークに始まり、ペアを組んでのラーニングセル等の実践も織り交ぜ、具体的なアクティブラーニングの手法も体感できるよう工夫されていた。ただ、いつもいわれることではあるが、受講者が多分野にわたっており、また、免許取得も目標とする学部の参加者が半数弱を占めており、ゴールの設定が多様になる可能性もあることから、各分野毎に，より具体的な授業設計入門を開講していただくとさらに、IDについての理解が深まるのではないかとも思った。非常に短時間で「IDの原則について説明できる」という到達目標に達したと自信をもっていえるかというとやや不安が残ることが、「到達目標が達成された」という質問に対して，「あてはまる」と，きっぱり答えた人の割合が，他の質問項目よりやや数値が低い理由の１つではないかと解析している。ただ、全体として，後期の授業や今後のシラバス作成の上で、非常に役立つ内容のプログラムであったと総括できる。

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１３７回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２８年９月９日提出）

１．題　目：平成 28 年度 FD・SD サマーワークショップ
「長大生の学習行動から考える教育改善－学生調査結果報告－」

２．日　時：平成 28 年 8 月 30 日（火）　13:00～14:30

３．場　所：第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　○　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
2013～2015 年度に 1 年生と 3 年生に対して学生調査を実施しました。本プログラムでは，学生調査の報告書をもとに，本学の学生の学習行動がどのようであり，大学の教育をどのように考えているのかを確認することで，現状の教育のあり方を考え直す機会を提供します。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】中島ゆり 准教授（大学教育イノベーションセンター）
【内容】2013～2015 年度に 1 年生と 3 年生に対して実施した学生調査の結果を報告し、現状の教育のあり方を振り返って議論します。
【到達目標】
①現状の本学の学生の学習行動を知る
②長崎大学の教育上の課題を知る

③課題についてどのように対応できるかの案を考える

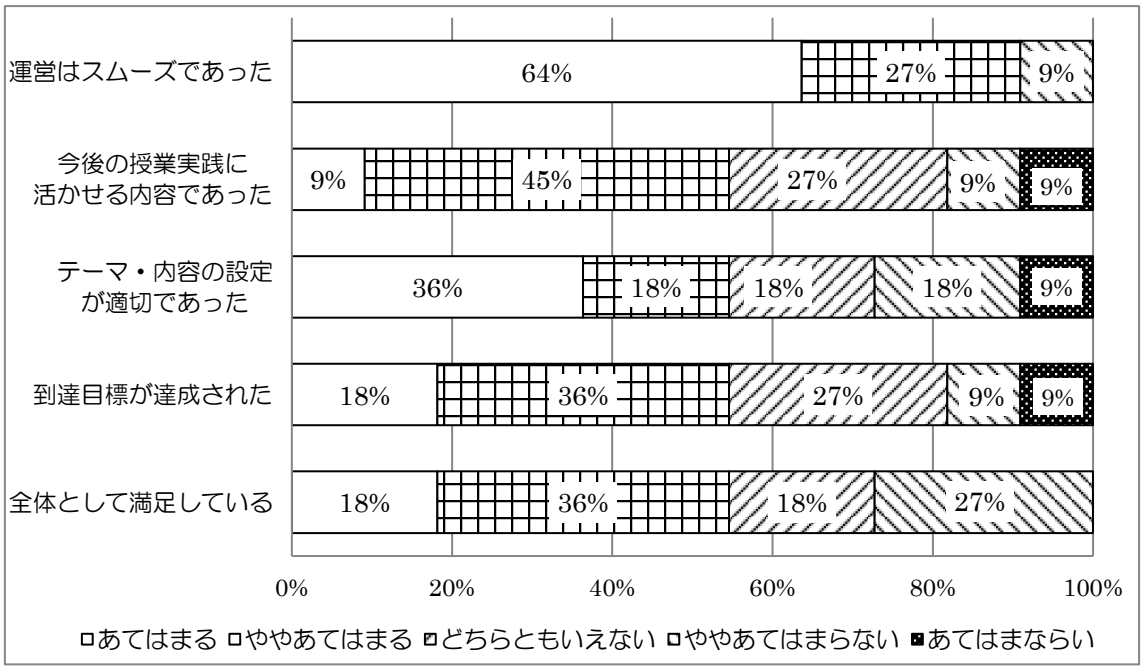
９．参加者：１３名（受講証発行対象者：１３名）

（内訳）

| 所　　属 | 人　数 |
|---|---|
| 多文化社会学部 | 1 |
| 教育学部 | 2 |
| 経済学部 | 2 |
| 医学部 | 1 |
| 工学研究科 | 2 |
| 医歯薬学総合研究科（薬系） | 1 |
| 水産・環境科学総合研究科(環境) | 1 |
| 国際教育リエゾン機構 | 1 |
| 大学教育イノベーションセンター | 2 |
| 計 | 13 |

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（回答者：11 名）




● 今回のプログラムについて，お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

・記述データのみであったため、もう少し様々な分析結果を示していただければ、とてもうれしかったです。

・研究会の意見交換会で、資料から読み取れるものを話し合うべきなのに、資料そのものの質疑

が目立ったような気がします。運営に携わる司会者が誘導すべきだと感じました。

・主観的質問が多すぎてあまり参考にならなかった。同じ満足でも、満足な理由を知りたい。例えば、各学部においてクラス担任が定期的に1年間に何回面談をしているか、また、臨時に学生を呼び出して指導することが頻繁に行われているかなど、客観的なデータがほしい。その結果、学生が満足しているかどうかということです。身に付けた能力と知識については、順位で説明するだけでは不十分です。同じ20位でも環境や歯学部は40%を超えています。

・プログラムの告知では，調査結果の報告を基にして「内容」では「現状の教育のあり方を振り返って議論します」と，「到達目標」では「②?崎大学の教育上の課題を知る，③課題についてどのように対応できるかの案を考える」とあったが，そのような取り組みの時間がまったくなく，報告と質疑応答に終わってしまった。これは残念な結果であった。受講者としてあらかじめ報告書のＰＤＦファイルに少し目を通していたので，実際のプログラム内容は貧困に終わり，あまり意義を感じられなかった。

・ＩＲコンソーシアムのアンケートで、長崎大で独自の項目を設定・調査した結果ではない点は評価が難しいと思います。ただ、参加している以上はアウトプットを求められると思うので、今回はこのような形になったのでしょう。したがって、各学部間の厳密な比較や統計指標を用いた分析も今回は求めるのは酷ではないかと思いました。また、医歯薬は６年次まであるので、専門教育課程でのＩＲがむしろ求められていると考えています。コンソーシアムのもの（もし継続されるのであれば）と、教養教育独自のもの、部局の調査をうまくリンクさせて、よいものになっていけばいいなと考えます。入り口部分のデータは部局はさわりにくいので、イノベーションセンター教学ＩＲ部門と連携させていただければと思います。

・もう少しデータを整理してから講演した方がよかったと思う。

・学習行動というより、学生意識に関する報告が主であったように感じた。そのため、授業改善に活かせる発見はあまりなかった。

・聴講するのも研究者なのだから，研究を発表するレベルの分析が欲しい.

事務職員

・思っていた以上に、ご出席の先生方からのリアクションがあり、参加してよかったです。教学IR のデータに対して先生方がお持ちの希望・期待をお伺いすることができ、また、学生の分析において気をつけるべきことや、データが一人歩きしないような公開方法を考えていく必要なども含めて、分析側として大変有益なFDとなりました。

● 長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。

・ここ数年間における新入生の心理的・社会的変化に関する、エビデンスに基づいたお話が聞けると大変参考になります。

・入学時の学生の考え方や行動がどう変化してきているか、それに教職員はどう対応すればよいのか。学力が落ちてきているのはそれなりに対応可能だが、約束を守らない、授業の出席は当

たり前と思わない、将来に対して意欲がないといった学生の%がふえている。初年次教育をどのように行えば、卒業までうまくいくのか（学生もよく勉強し、教員も手間がかからず教育しやすい）。モジュール制を真剣に評価をすべき。学生による FD というのが何年か前のモジュール制が始まった時にあった。そこで、多くの学生から不満が噴出したが、大学は現状を肯定してきたと思う。どこがいけないのか、どう改善すればよいのか、授業の公開をやってもそれだけで改善が進むとは限らない。モジュール制を始めるときの説明会で学長は「教養の授業が面白くないという学生がいる」と言い、モジュール制を始める理由の１つとしたが、今回のアンケート結果からそれは改善されてないと言える。

・特になし

・教育効果の評価方法について、大人数講義の方法について

・学生がディスカッションや発表を向上させるための指導方法、課題の出し方など。

・大人数相手の講義方法のレクチャー

事務職員

・特にありません

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

本ＦＤの主旨は，学生調査の実施報告書に基づき，学生の学習行動の実態把握と，そこから明らかになる大学教育の課題への対応であった。参加者の関心はたいへん高く，報告に対する質疑応答が盛んに行われた。

確かに，一部から指摘があるように，質疑応答のほとんどが調査方法やその分析の射程と限界に関するものであり，教育課題への対応については十分な時間を割くことはできなかった。しかしながら，このことは改めて，学生の学習行動を客観的、総合的に捉えることがいかに難しいことであるかを示しており，また，大学の教育改革を客観的な資料に基づいて行うことが，依然，チャレンジングで不可欠な課題であることを明らかにしている。

また，今回の質疑応答で出された調査方法に対する意見は，単に調査技法をめぐる形式的な議論ではなく，むしろ，教員側が教育現場のなかに見出している問題点やその所在をどう考えているかについて浮き彫りにする，意義深いものであった。

例えば，質疑応答のなかで，大学生の意識や行動に関して以下のような項目への言及がなされた。すなわち，「大学選択で重視した点・志望度」「入学時の期待」「大学への適応」「学習時間」「生活時間」「大学教育の選好」「授業への取り組み」「学習成果」「先生との交流」「友人との交流」「進路意識」「授業の満足度」「社会観や就労観」などである。そして特に今回のＦＤで出された提案としては，専門教育課程・教養教育課程・各部局入口部分での調査のリンク，大学間での同学部・同専攻の比較，卒業生の追跡調査などであった。こうした意見や提案は，学生の意識と行動に対する理解をより深めたいとする教員の率直な気持ちの表れであり，客観的データに基づく教育課題への取組みに

対する大きな期待の表れであろう。

（文責　首藤）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長 松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１３７回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２８年９月６日提出）

１．題　目：平成 28 年度 FD・SD サマーワークショップ
「簡単に導入できるアクティブ・ラーニングー問いを変えると授業が変わるー」

２．日　時：平成 28 年 8 月 31 日（水）　10:30～12:00

３．場　所：第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
授業でアクティブ･ラーニングを実現するためには,学生の思考を促すための「問い」が重要な役割を果たします。本プログラムでは，授業における問いの機能に注目して，その立て方を参加者全員で考えていきます。

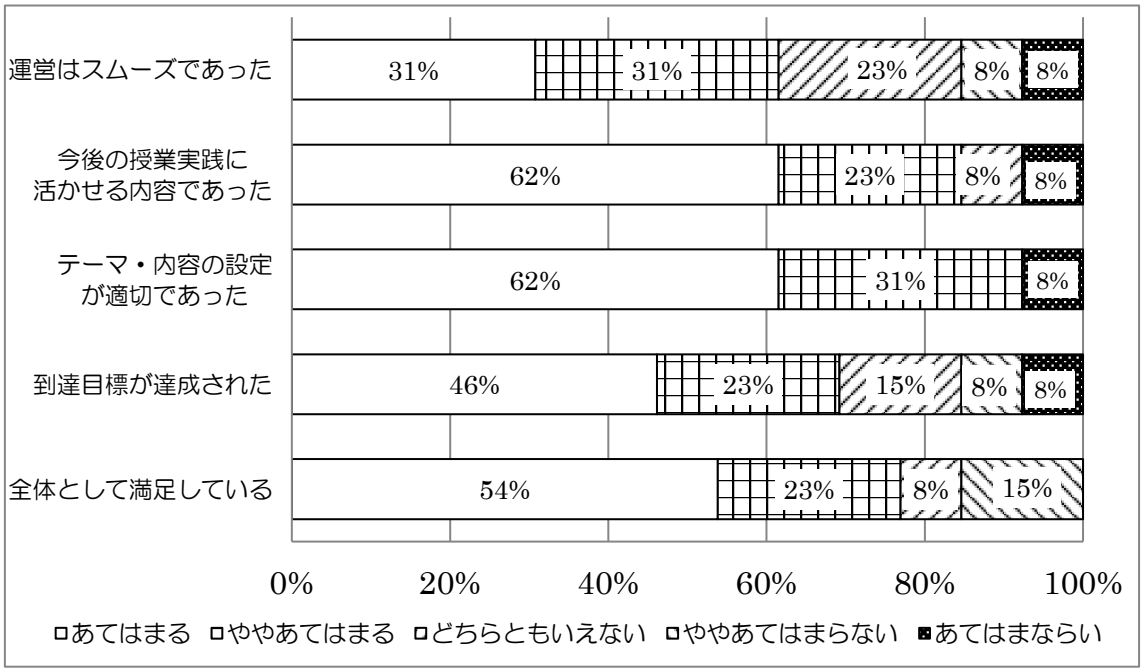
８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】北村　史 助教
若菜啓孝 教授（大学教育イノベーションセンター）
【内容】2013～2015 年度に 1 年生と 3 年生に対して実施した学生調査の結果を報告し，現状の教育のあり方を振り返って議論します。
【到達目標】
①現状の本学の学生の学習行動を知る

②長崎大学の教育上の課題を知る
③課題についてどのように対応できるかの案を考える

９．参加者：２２名（受講証発行対象者：２２名）
（内訳）

| 所　　属 | 人　数 |
|---|---|
| 多文化社会学部 | 1 |
| 教育学部 | 6 |
| 経済学部 | 3 |
| 医歯薬学総合研究科（医系） | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（保系） | 4 |
| 医歯薬学総合研究科（薬系） | 1 |
| 工学研究科 | 1 |
| ICT 基盤センター | 1 |
| 大学教育イノベーションセンター | 2 |
| 地方創生推進本部　キャリア支援センター | 1 |
| 非常勤講師 | 1 |
| 計 | 22 |

１０．実施したＦＤの成果等
（１） 参加者からの評価（回答者：13 名）



●今回のプログラムについて、お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

- ワークで自分の講義についてを題材に考える時間がとれてすぐ役に立ちそう。ありがとうございました
- グループワークや個人ワークを通して発問の難しさと大切さについて学ぶことができました。今後、活用して効果的な発問ができるよう実践していきます。
- 理系の基礎知識を教える授業が主なので，文系のよう本質的なにオープンな発問がしにくいと感じた．グループワークで他の先生の授業内容を理解するのに時間がかかり（分野が異なりすぎたので），発問に関する議論まで進まなかった．
- 時間の配分がやや窮屈だった。よく準備されていて分かりやすい講義だった。最後の発問シートは、最初から分かりやすいサンプルが記入さていた方が説明しやすく受講者も分かりやすいと思う。
- 発問の機能や種類について、わかりやすく理解することができた。また、初等・中等と大学との発問の違いを示していただけたので、教員養成を行う立場として興味を持って話を聞くことができた。
- 日頃行っている講義で発問を考えてみたが、核となるものを具体化していなかったためいざ発表するときに、どう説明したらよいか困った（専門過ぎた）。事前に考える課題、テーマ等を提出していただいていたらより今回の授業を活用できたと思います。
- 時間が足りなくて、他の参加されている先生方と意見を深めるところまではいきませんでしたが、要点は理解することが出来ました。自らの授業に応用させながら活用していきたいと思います。
- 我々のグループは、グループワークを時間内に終わらせることが一度もできなかったため、中途半端感（消化不良感）が残りました。
- タイトルまたは到達目標に「学生を深く考えさせるための発問」と明示していただきたかったです。「学生の思考を促す」では理解できませんでした。・取り扱う教授法が、講義に取り入れられていると身に付きます。「本質的な問い」をスライドにも登場させると効果的とのことでしたが、今日のスライドには発問が使われていませんでした。

●長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。

- いつもありがとうございます
- ありがとうございました。
- 明日の FD に近いですが、「人がわかりやすい話し方」について
- 効果的な話し合い学習、またはグループ学習
- 本日のテーマは、老いも若きも全ての教員が授業実践に活かせるヒントを頂ける内容でとても良かったと思います。同じテーマで、もう少し時間を長くとった FD を再度していただきたいと思います。
- 教授法のスキルを、実際に講義を受けながら学ぶと理解しやすく身につくと思います。・

「適切に発問をできること」を学ぶ講義では、発問をふんだんに取り入れた講義を期待します。・あしたの矢野先生は、共感を得る話し方で「共感を得る話し方」の講義をしてくださるでしょうか。・教員に教授法を指導する人材が必要です。長崎大学で北村先生と岡田先生を専任スタッフとして雇用してください。

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

講義やゼミ、実験など多くの場面で、学生に対して問いかけを発するという場面に遭遇することは多いが、その意義や具体的手法、講義の流れの中での位置づけなどについて体系的に考える機会はほとんどなかったので、今回のＦＤは非常に有意義であった。3 人ないし 4 人のグループワークを通して発問の技術的側面を体験するという進め方はそれ自体がアクティブラーニングの技法の体験であるだけでなく、発問手法の体得にとって大変有効であった。最後で用いた 9 マスの発問準備のためのワークシートは様々な場面での活用が期待される有益なツールであった。

ただ、時間の制約のためグループ内での討議が十分できなかったケースもあり、これが 5 段階評価で「運営がスムーズであった」の評価が低かった理由であろう。さらにこのことが「到達目標の達成」が 54%という数値につながったのではないか。他方、「今後の授業計画に活用できる」と評価した参加者が多いので、作業の一部を受講者に事前に準備してきてもらうといった対応により、今後、さらに評価が高くなる余地がある。

（文責　深浦）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長 松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１３７回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２８年９月６日提出）

１．題　目：平成 28 年度 FD・SD サマーワークショップ
「障がい・不当な差別的取扱いの禁止・合理的配慮について考える」

２．日　時：平成 28 年 8 月 31 日（水）　13:00～14:30

３．場　所：第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　○　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　○　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
平成 28 年 4 月に施行された「障害者差別解消法」では不当な差別的取扱いが禁止され，合理的配慮の提供も義務となりました。本プログラムでは，「長崎大学における障害者差別解消等の推進に関する規則」の解説に加えて事例を通して授業等における合理的配慮の実践を検討し，教育活動の改善への貢献をめざします。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】ピーター・バーニック 助教（障がい学生支援室）
【内容】
①「障害者差別解消法」の背景
②本学における規則・理念・方針
③障がい学生支援室の役割と支援体制
④合理的配慮に関する考え方と具体例

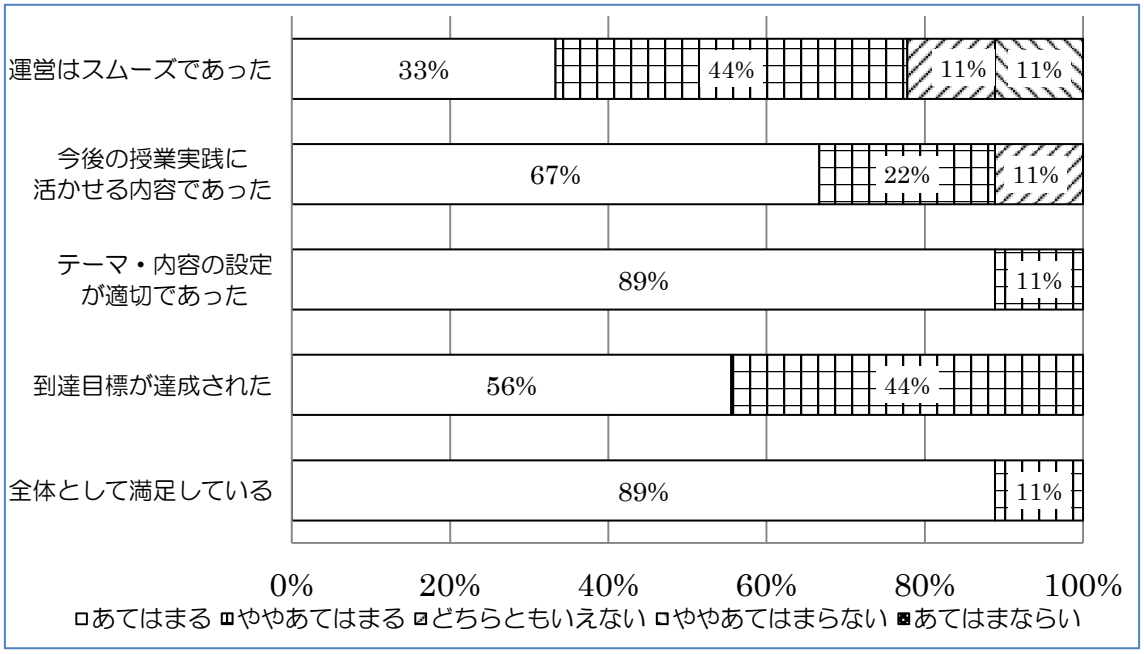
⑤小グループによる検討
⑥質疑応答
※簡単なアンケートも実施予定

【到達目標】
①教育活動における「障害者差別解消法」に関する留意点について理解する
②本学における障がいのある学生のための支援体制を知る
③授業における「合理的配慮」の実施について理解を深める

９．参加者：１７名（受講証発行対象者：１７名）
（内訳）

| 所　　属 | 人　　数 |
|---|---|
| 教育学部 | 2 |
| 経済学部 | 1 |
| 工学研究科 | 2 |
| 水産・環境科学総合研究科(水産) | 1 |
| 水産・環境科学総合研究科(環境) | 1 |
| 熱帯医学研究所 | 1 |
| 国際教育リエゾン機構 | 3 |
| 保健医療推進センター | 2 |
| ICT 基盤センター | 1 |
| 大学教育イノベーションセンター | 1 |
| 学生支援部 | 2 |
| 計 | 17 |

１０．実施したＦＤの成果等
（１） 参加者からの評価（回答者：9 名）




●今回のプログラムについて、お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

- このような教職員への啓発、事実を知らせることがたいせつと感じました。
- 障がいのある学生に対応するにあたり，ディプロマポリシーといった原則的な部分でさえ，考えるべき点があるということで，大いに勉強になりました。
- さまざまな障がいの多様性、その程度や対応の見極めを判断する際に迷いや困難が生じるように思った。様々な対応事例の収集とその周知が望まれるかもしれない。可能な範囲で。
- グループワークの時間がもっとあってもよかったです
- 教育基盤として整備され、課さなければならない講義や実習の履修が、学生が抱える障がいのために出来ない場合の措置について、今後考えていかなければならない多くの事がある事が理解できました。このような企画に感謝申し上げます。
- 合理的配慮の実際がわかった。グループワークをすることで、実際に、合理的配慮を行う事の難しさが実感出来た。
- このテーマについては、より多くの教職員に参加を促しつつ継続的に実施していただくのが良いと思います。
- 合理的配慮の財政措置まで踏み込んだ説明が必要なのではないか. 実際にあった具体例を共有したほうが良いのではないか.

●長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。

- ＦＤですが，学生も参加して，学生の意見を聞けるようなものがあれば，より勉強になりそうな気がします。内容は，いろいろ扱えそうですが，今回の，障がい学生支援に関するものでも，障がいがない学生たちはどう感じているか，どうしたいと思っているのか，知

ってみたい気がします。

・　特にありません

・　学習障害や発達障害が疑われる学生の、早期発見と適切な対応について.現在は、対応する教員の能力に依存する部分が大きく、対応できる教員に負荷が集中する心配があります。事例の蓄積と共有をしながら教員の対応力を増していく必要があると思います。

・　大人数相手の授業方法の改善策

（２）総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

本ＦＤを全体的に振り返ると，障害者差別解消法が本年４月に施行されたばかりで，その内容が広く知られていないなか，このワークショップは，教職員への啓発，情報の共有，今後の改善策を考えるうえで貴重な機会であった。なかでも，(1)不当な差別的取り扱いの禁止，(2)合理的配慮を提供する義務，(3)事業主に過重な負担を求めないことなど，これら主な基本方針を実施するに際し，いずれも明確な定義やルールが示されていない状況で，いかにこの３点の調和を保ちながら，どの程度まで支援に当たればよいかに，対応上の見極めや判断の難しさが感じられた。

こうした実情により，上記10（１）の感想にも見られるように，今後も可能な範囲でさまざまな対応事例の収集とその周知を行い，それらを継続して行うこと，また学生も教職員と一緒になって互いに情報を共有する場を設けるなど，地道な啓発活動が求められるように思われた。

今回のＦＤは，障害者差別解消法と本学の規則に係る基本的な前提を踏まえたうえで，グループ活動を行い，問題となる具体例を実践的に検討しながら現状について情報を共有できたことから，障がい者に対する配慮を折に触れて考えるとても良い契機になったと考える。引き続き，このような機会が設けられることを期待したい。

（文責　松元）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長 松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線2077

第１３７回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２８年９月８日提出）

１．題　目：平成 28 年度 FD・SD サマーワークショップ
「共感を得る話し方のコツ」

２．日　時：平成 28 年 9 月 1 日（木）　13:00～14:30

３．場　所：第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　○　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
授業や研究発表・会議等の場面では，スピーチやプレゼンテーションを行う機会があります。本プログラムでは、聞き手の共感を得て，応援されやすい「話し方」のコツを習得することを目指します。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】矢野香 助教（キャリア支援センター）
【内容】「説得話法」や「ストーリーテリング」など，スピーチ，プレゼンテーションのテクニックをワーク中心に紹介します。
【到達目標】
①共感を得やすい話し方のスキルを知る
②具体的な場面を想定して，共感を得やすい話し方のスキルを使って話すための計画を立てることができる

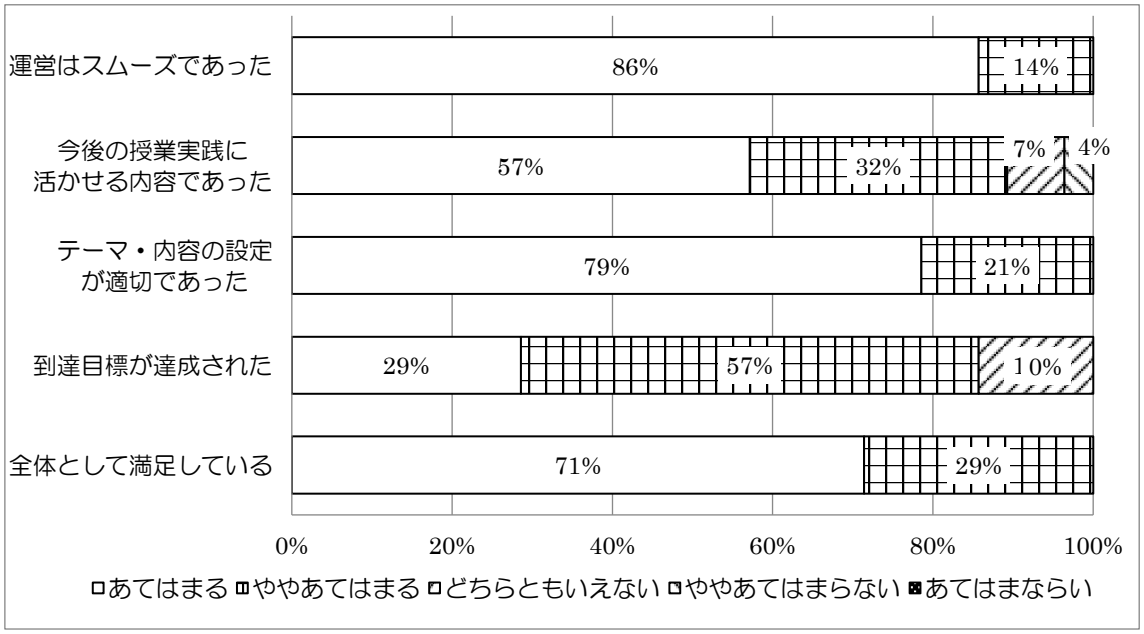
９．参加者：３５名（受講証発行対象者：３５名）

（内訳）

| 所　　属 | 人　　数 |
|---|---|
| 教育学部 | 4 |
| 経済学部 | 1 |
| 医学部医学科 | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（医系） | 5 |
| 医歯薬学総合研究科（保系） | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（歯系） | 3 |
| 医歯薬学総合研究科（薬系） | 3 |
| 医歯薬学総合研究科ハイブリッド医療人養成センター | 1 |
| 工学研究科 | 6 |
| 水産・環境科学総合研究科(水産) | 1 |
| 水産・環境科学総合研究科(環境) | 1 |
| 原爆後障害医療研究所 | 1 |
| 病院 | 1 |
| 産学官連携戦略本部 | 1 |
| ダイバーシティ推進センター | 1 |
| 学生支援部 | 2 |
| 経済学部支援課 | 1 |
| 学生 | 1 |
| 計 | 35 |

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（回答者：28 名）




●今回のプログラムについて、お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

- 大学病院で開催された矢野講師の講演会に参加できなかったので、再度企画していただきたい。
- 1 回ではなく数回に分けて，もう少し詳しく広範囲に講演してもらえると，より効果的だと思う。
- 構成がしっかりと練られたプレゼンでした。話し方もとても参考になりました。矢野先生のような素晴らしいプレゼンターに、今後も、ＦＤを担当していただきたいと思いました。″
- スキルのご教授ありがとうございました。
- 多数のテーマの中から選んで FD に参加することが出来たので都合が良かったと思います。テーマは興味深く、内容がよく整理されて講演と進行もスッキリとしたものであったと思います。講演(プレゼン)内容の資料を最初に配布せずに後の方で配ったのは、スライドの最後にあった「身体非言語」で水平方向のみ、というのを演者のみではなく我々聴衆にも実践させる狙いがあったのかなと推測してみました。有益なお話を有難うございました。
- もう少し時間を取って、グループでの発表内容について、講師の先生からのコメントをもらえれば良かったと思います。
- 信頼もさることながら，如何にしたら相手に理解・納得させて共感してもらえるか，改めて考えるよい機会となりました．伝授いただきました論理的に伝えるスキル，活用してみます．有り難うございました．
- 今回，例として取り上げられた小泉進次郎の応援演説ですが，応援している候補者のどこがすばらしいか，なぜ，この候補者に投票すべきか何も言っていません。ロジックは他の政党

には任せられないから，自民党へ。この候補者に実力があるかなんてことは何も触れていない。このような薄っぺらい演説でも，皆，騙されるのでしょうか？もっと説得力のある演説にするには，何が必要か，などのコメントがあってもよかったと思います。非言語的な部分（間のとり方や，ジェスチャー，話す速度など）についても，もう少し説明して頂きたかったです。

- 1 対多でのスピーチのコツが分かり， 講義の資料を作成するための参考になり， 大変良かった.
- 受講して良かったと思えた。スピーチには著作権が発生しないのか疑問に思った。ご存知だったらご教授願いたい。

事務職員

- 1 時間半では足りなく感じたので、具体的な手法をもっと深く教えてもらいたかった。
- 普段無意識に行っていることでも、体系立てられたメソッドに当てはめて実践してみることで、以後「伝わる」可能性を上げることができる。今回のプログラムでは、取り上げるメソッドを一定に絞って提供いただいたこともあり、より実践的なロールプレイを楽しむことができた。個人的には、「ロジック・チャート」を自分の中に取り入れて落とし込むには、もう一歩踏み込んだスキルが必要だと感じた。チャートに整理できたとしても、それを更に順序立ててアウトプットする（実際に話す）には、また別のスキルを要するのではと考えた。教育現場、特に大学という場では、その点を不得手とする方が多いように感じる。
- 限られた時間内でポイントを絞って構成されていたので、集中できた。むしろあっという間であったと思う。ほかのＦＤと比べて医歯薬系の先生方も多く参加されており、汎用性のあるテーマであったことが伺えた。矢野先生、お疲れ様でした。

●長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。

- 今回のような内容の講義をまた受けさせていただければと思います。
- 動機付け面接法
- 今回のような、プレゼンに関する内容、スライドの作成のコツなども教えてもらいたいです。すでに開催されているのかもしれませんが。
- 学生指導の方法について（留年しそうな学生の指導方法）
- 今時の学生の気持ち、希望、ノリを知りたい。
- やる気を引き出す指導法、など。
- 特にありません
- プレゼンそれ自体のスキルやディスカッションの方法について学べるＦＤがあると良いと思います。たとえば、以前、ＴＥＤにも出られて、プレゼンや話し方について、たくさんの著書を出版されている「狩野みき」さんのような方を、プレゼンターとして、お呼びすることはできませんでしょうか？

・　特になし
・　漠然としていてすみませんが「読書のすすめ」。
・　教育に関する雑務の効率的な作業のコツ・ノウハウ
・　海外大学におけるメンター制度について
・　大人数相手の講義での授業の改善方法.
・　職場の人間関係について

事務職員

・　今回のようなコミュニケーションに関するテーマを多く取り扱ってほしい。
・　特にありません。今のままでも十分に多様なので、引き続き多様で楽しめるテーマ設定をお願いしたい。

（２）総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

キャリア教育支援センターの天野香先生を講師に迎えて FD が実施され，学生や事務職員を含む３５名もの参加者が共感を得るための話し方のノウハウをワークショップ形式で学んだ。受講者からの意見にみられるように，大方の参加者からは本 FD に対してポジティブな感想が得られている。説得話法，ストーリーテリング，ロジックチャートなど共感を得られる話し方をするための知識とスキルおよびスキルを使う計画を建てることの重要性について楽しく学ぶことができた。I，you，we の順に聴衆の中に味方を作って話す話法など，実際の講義でもすぐに応用できそうな技術の紹介と説明もあった。本 FD の趣旨は聞き手の共感を得て，応援されやすい話し方のコツの習得を目指すものであったが，共感を得るための話法を自分のものにするためには緻密な計画と適切な言葉の選択が極めて重要であり，FD を受講したからと言って簡単に身につくような技術ではないと感じた。　　（文責　才本）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長 松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１３７回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２８年９月６日提出）

１．題　目：平成 28 年度 FD・SD サマーワークショップ
「授業で使える動画コンテンツ作成クリニック」

２．日　時：平成 28 年 9 月 2 日（金）　10:30～12:00

３．場　所：第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　○　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
e ラーニングや反転授業のようなブレンディッドラーニングのニーズが高まる中で，教員が個人で動画形式の授業コンテンツを作成するためのノウハウが必要とされています。本プログラムでは，Windows 環境で比較的容易に動画コンテンツを作成する方法を紹介します。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】若菜啓孝 教授
北村　史 助教（大学教育イノベーションセンター）
【内容】可能な限り特別な機材や有料のアプリケーションソフトウェアを使わずに，動画コンテンツを作成する環境の導入方法から基本的な使い方までを紹介します。
【到達目標】①動画授業コンテンツを自分で作成できる

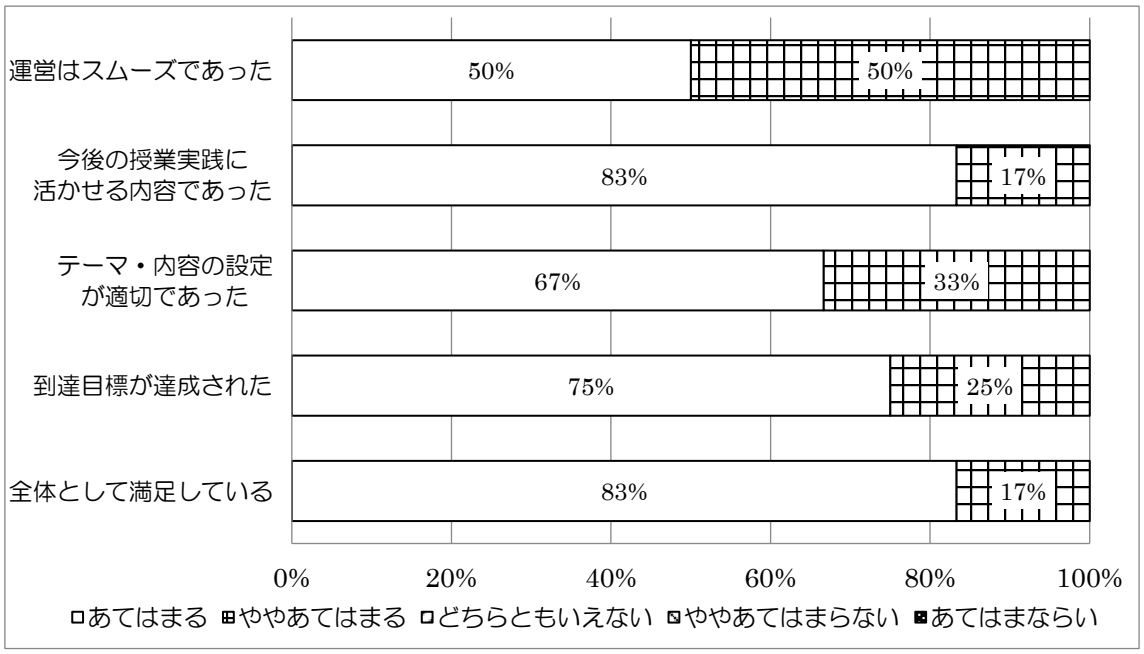
９．参加者：１９名（受講証発行対象者：１９名）

（内訳）

| 所　　属 | 人　数 |
|---|---|
| 教育学部 | 2 |
| 経済学部 | 1 |
| 医学部 | 1 |
| 工学研究科 | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（医系） | 2 |
| 医歯薬学総合研究科（保系） | 3 |
| 医歯薬学総合研究科（歯系） | 2 |
| 水産・環境科学総合研究科(環境) | 2 |
| 産学官連携戦略本部 | 1 |
| 国際教育リエゾン機構 | 2 |
| ダイバーシティ推進センター | 1 |
| 学生支援部 | 1 |
| 計 | 19 |

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（回答者：12 名）



●今回のプログラムについて、お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

- 大変参考になりました。ありがとうございました。ただし、予定時間を少し超過してしまったのが残念でした。今後は時間を守っていただけると助かります。″
- 先生方、お疲れさまでした。予想以上に新入生 OR や教員への説明会などで使用できる内容でした。今回出来上がった作品です（画質は一番低いピクセルです）略
- また、動画サーバーについて個別にお伺いさせてください。
- よろしくお願いいたします。″
- 本当に簡単に動画コンテンツが作成できることを知り、衝撃でした。こんなにいいアドインがフリーで提供されていることを知り、使い方まで教えていただいたので、ぜひ、今後講義の中で生かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- すぐに役立つ FD で、とても楽しく受講させていただきました。どうもありがとうございました。
- 非常に有意義であり，講義コンテンツ作成の意欲が沸いた。
- 講師が事例を見せた後、実際に演習する流れにより、理解が深まった。
- 北村先生が動作を丁寧に教えてくださり、慣れない自分にも作業手順が分かりました。大変参考になりました、ありがとうございました。
- こういった講習を待っていました！という気持ちで参加させていただきました。普段使っているパワポで、手軽にこうした動画が作成できて、とても満足しています。また次の新しい企画にさらに期待させていただきます。ありがとうございました。
- 貸出 PC を準備してくださっていたので助かりました。
- 動画コンテンツについて丁寧に説明していただきありがとうございました。事前学習、講義、技術演習などに使用したいと思います。

●長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。

- 今回のような簡単に作成できるコンテンツが他にあれば、ぜひまた教えていただきたいです。
- テレビのドキュメンタリー番組などから録画したものを PPT に埋め込む方法。その他、動画教材の効果的利用方法など。
- 今回のように、身近なソフトでこんなことができる、ということを教えていただける企画を期待しています。
- 教養は担当していますが、留学生向けのものしか担当していないので、こういうテーマのものは参加しやすいです。
- 来年度も是非サマーワークショップを開催して欲しいです。
- 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

参加者の 90％近くが今後の授業に活かせる内容だったとして満足しており、本 FD

は非常に好評であった。個々の意見としても、今まで知らなかった動画コンテンツの作成法が簡単にしかも無償で作成できることに，驚きを持った声が多く聞かれた。実習を含む講義は分かりやすく実践的で時間の経過を忘れる内容であったが、わずか数分の時間超過ではあったものの、半数以上の参加者に運営がスムーズで無かったと感じさせる結果となったことは惜しまれる。今後も、同様に簡便な新しい教育ツールのを紹介するFDが期待される。

（文責　朝比奈）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長 松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線2077